

しんらん同人

No.572

1・2

月号



浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之



あけましておめでとうございます

新しい年が皆様方にとりまして

沢山の思い出を残す年であることを念じております

皆様お健やかに



人は「経験の生き物だ」と言われます。沢山の経験を経て成長します。しかしながら、どの様に受け取るかによって「経験の質」が大きく変わります。そのため今年は表題の一文を【味】にしました。

けさの朝食を、「食事をした事」として考えるのも一つ、「食事を人生の意味あるものとして味わう」のも一つです。

今から起こる様々なことを、新鮮な心で興味を持って楽しみ、次への成長の糧にしてください。

次ページの初代住職・岡本泰雄のご法話にあります、如来の大慈悲心も「事」として受け取るのではなく、「味わって」いきましよう。

すべておまかせ

誓願寺初代住職 故岡本 泰雄

Vol.2

「すべておまかせ」の内容は、
令和四年十一月十二月号、
令和五年一・二月号の二回に
分けて掲載しています。

『安心決定抄』に『念仏の行者、名号を聞かば、ああはや我が往生は成就しにけり、十方衆生往生成就せずば、正覚取らじと誓ひたまひし、宝蔵菩薩の正覚の果名なるが故にと思ふべし』

南無阿弥陀仏という名を聞かしてもらったら、必ず救うぞ、間違わさんぞというお誓いが出来上がったのが名号でありますから、この名号を聞いたら、あゝはや我が往生は成就しにけり、この名号の上に私の往生がもう解決されておったのだな、こう頂戴すべきであると。

それから、『信心決定せん人は、身も南無阿弥陀仏、心も南無阿弥陀仏と思ふべきなり』

南無阿弥陀仏をいただいた人は、身体も心もすべて南無阿弥陀仏にまるめられてしまっておるんだ、こう味わって行かねばなりません。

また『仏心は我らを愍念したまうこと骨髓に徹りて染みつきたまへり』

仏さまの心というのは、私共を哀れんで下さり、そして可哀そうだな、何とかして救わずにはおかんぞというその心が、私の骨髓・骨ですね、そこまでしみとおって下さるのであります。

す。

『例えば、火の炭におこりつきたるがごとし』たとえば、火を起こして、炭に火が付いたようだ、『離たんとするも離るべからず』いったん炭に火が付くと、その火を捨てようとしても捨てることは出来ないようなものです。

『攝取の心光、我らを照らして身より髓に徹る』

攝取不捨、如来様のお慈悲の心、攝取の光が我等を照らしてくださって、身より髓に至るまで、通って下さるのである。

だから「三毒煩惱の心までも、仏の功德の染届かぬ所はない」

自分の心を思ってみたら、欲と腹立ちと愚痴、そういう心が燃え立っているのが私の心であります。骨の中にまで飛び込んできて、離し給わないのが如来様のお慈悲の心であります。

観無量寿経の中のお言葉に『仏心というは大慈悲これなり』

仏さまの心というのは、何か特別なものがあるような気がしてみたり、それをどうすれば自分の心に頂けるかと思ってみたりしますが、そんなもんじゃありません。慈悲心が大きいという意味は、絶対という意味です。はかることの出来ない大きなものを「大」というのです。

如来様のお慈悲というのは計り知れない。計り知れないお慈悲なのに、こういうふうには思ったら救ってもらえるのじゃないか、守ってもらえるのではないかと、自分の思いで仏様の心を押し量ったりする場合があります。そんなものは役に立たないのであります。お慈悲は絶対である。どうだから、こうだから

ではなくて、どうしても私を離さんと抱き続けていて下さるお慈悲が如来のお慈悲であるということを『仏心は大慈悲これなり』といっておられる。

お聖教をいただいてみると、如来様のお慈悲が骨髓・骨のしんまでしみついていて下さる。他人の事ではありませんよ、お互いみんな一人一人そうなんです。今、そうしていらっしゃるそのまんま、如来のお慈悲はその骨髓に通っていただくさる。

離そうとしても離れることは出来ない。捨てようとしても捨てることは出来ない。それは丁度炭に火が起こっているようなもので、火がついてしまったら、どうしようも出来ない。そういうように如来の大悲が私の身体にしみついて下さるんだ、そういう働きをして下さるのが、大慈悲心であります。

絶大なる如来のお慈悲が私の上に働いて下さる、と頂戴させていただきますと、どうしようか、こうしようかは用事がなくなりますね。むこうから一生懸命になって私を包んでいて下さるのですから、それにおまかせして抱かれていますことを味わいながら今日を生かしていただくよりほかにはないと思います。

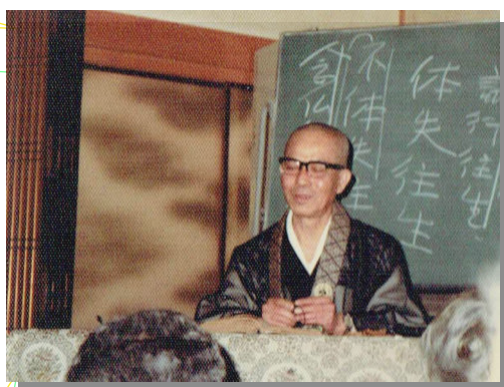
安心決定抄は、そんなことがずっと書いてあるのです。

如来様のお慈悲は、こちらからお願いしたから救って下さるような、そんなお慈悲ではなくて、向こうから離さんぞとつみとつてくださるであります。

そういただくと、本当にどうしようどうしようではなかった、常に如来のおはからいの中にあったということを喜ばしていただくより他にはないわけであります。

実際のところになってきますと、ただひたすらに念仏申して、南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏、有難うございますと、思い出しでは念仏を申させて頂くことであります。

み名をとなえる、親のみ名をとなえる、如来様のみ名をとなえる、南無阿弥陀仏、本当にそうだな、私がこうしておるまんま、しみとおっていただくさるお慈悲であったか。そうするといつ何時この人生をさよならする時がきても、抱かれたまま行く世界はお浄土より他にはないわけでありまますから、そこに安心させていただく。今の日常が、念仏の生活といわれるものであります。



【岡本泰雄師 法話風景】

合掌

2023
令和5年

誓願寺 法座カレンダー

法座は第2日曜日(10:00～)、第4日曜日(13:00～)に行っています。(一部例外あり。)
どなたでもご自由にご参加いただけます。参加費は無料です。



January

- 01** 13:00～ 元旦会
SUN 住職・副住職
- 08** 10:00～ 定例
SUN 上野隆平師(京都府)
- 22** 13:00～ 定例
SUN 樋渡利文師(東京都)



February

- 12** 10:00～ 定例
SUN 上野隆平師(京都府)
- 26** 13:00～ 定例
SUN 江田智昭師(東京都)

March

- 12** 10:00～ 定例
SUN 《調整中》
- 26** 13:00～ 彼岸会
SUN 高務哲量師(福井県)



April

- 09** 10:00～ 花まつり
SUN 森薫師(大阪府)
- 23** 13:00～ 定例
SUN 三原信隆師(大阪府)



May

- 14** 10:00～ 定例
SUN 金安一樹師(山口県)
- 28** 13:00～ 永代経
SUN 桜庭尚吾師(北海道)

June

- 11** 10:00～ 定例
SUN 内田正祥師(三重県)
- 25** 13:00～ 定例
SUN 武田一真師(広島県)



July

- 09** 10:00～ 盂蘭盆会
SUN 森島順英師(熊本県)
- 23** 13:00～ 定例
SUN 濱畑僚一師(大阪府)



August

- 13** 10:00～ 定例
SUN 柳父一道師(広島県)
- 27** 13:00～ 定例
SUN 片山量海師(長崎県)



September

- 10** 10:00～ 婦人会追悼
SUN 葦原理江師(京都府)
- 24** 13:00～ 彼岸会
SUN 《調整中》



October

- 08** 10:00～ 定例
SUN 上野隆平師(京都府)
- 22** 13:00～ 定例
SUN 《調整中》

November

- 12** 10:00～ 定例
SUN 上野隆平師(京都府)
- 26** 13:00～ 定例
SUN 山本摂叡師(大阪府)



December

- 10** 10:00～ 定例
SUN 森祐真師(大阪府)
- 31** 24:00～ 除夜会
SUN



副住職
法話

誓願寺 副住職 古賀明德

新年を迎え思うこと



インターネットやスマホ、SNS等によって私達が接する情報は膨大な量となり、人々の価値観はますます多様化しました。一方で、対人関係が薄れてお互いの思いを語り合う機会が少なくなり、争いを恐れて他人に干渉する事を避ける時代です。

宗教や哲学についても希薄な時代だとも言われていますが「自分らしい豊かな人生とは何か」「今を生き抜いた先には何があるのか」という問いに答えを求める人々も大勢いらっしゃると思います。

身近な話しやすい存在として、お仲間として、皆様と共に考えて行きたいものです。

得度をして五年。布教使資格を得て三年。自坊や知人のお寺でご法話をさせて頂く際に、聴いて下さる方々に少しでも興味を持っていただけるように、他の所であまり聞くことのなかった話、面白い話をさせて頂こうと考えている時期がありました。

しかし「何だかこれではいけない」と悩んでいた時に、伝道院でご教導下さった先生とお話させていただく機会があり、相談させていただきました。先生は「聴くことのなかった話、面白い話よりも大切なことがあるのではないか」とおっしゃられました。

それは「ありがたい話」であることが最も大切であるということであり、ご法話の基本である「自分の上で聞かせいただく」ということでした。

浄土真宗以外の宗派では「布教師」という漢字を用いますが、浄土真宗においては「布教使」という漢字を用います。「師」という漢字には、先生、子弟を導く人、手本という意味がありますが、浄土真宗の「布教使」という言葉には、聴いて下さる方々に何かを教えるという立場でなく、多くの先達が「まず私自身がご法話をさせて頂くとともに味合わせていただく、お聴かせいただくことが大切である。」と示してくださったように、お話させていただく自分自身が、多くの方々と一緒に同じ立場で、阿弥陀様のお心をお聴かせいただくことが大切なのであり、教える立場でなく、共に阿弥陀如来にお救い頂く御同行、御同朋として喜ばせていただく。私自身がご法話を用いさせていただくと同時に、多くの方々と喜んでいくという意味であるということをつねづね大切にしていかなければならない。聴いて下さる方々に聴いたことのない法話、面白い法話をする 것도大切であるが、何よりも先ず自分が有難いと思うご法話を念頭に置いて取り組ませていただくことが大切だとお話し下さいました。

三十歳半ばまでお寺と無縁に近かった私にとって、阿弥陀様のお話は新鮮であり有難いものでした。この思いを更に大きく深く育て、何よりもまずきちんと丁寧に間違えることなく、お心を受け取らせていただく場を求めている私自身があります。

宗祖親鸞聖人が、師主知識として法然上人よりいただいた阿弥陀如来のお心は、今、様々なご縁を通して私の上に届いています。

宗祖が「自信教人信。大悲弘普化」と示されたように、私たちが伝え広めるのではなく、阿弥陀如来の大悲そのものの働きが私を通じて法を広めていく。この基本を大切に、多くの方々と同じ立場で同じ目線で喜べる。垣根の低いお寺、話しやすい布教使を目指し布教活動を行ってまいりたいものです。

合掌

ご法座等 のご案内



どなたでも「自由に」参加いただけます。参加費は無料です。
関東地方にコロナによる緊急事態宣言が発令されている期間は、
諸活動を中止致します。ただし蔓延防止期間中は活動の予定です。
詳細は「ホームページ」等でご確認ください。

1月

1・1
(日)■午後一時～
元日会1・8
(日)

■午前十時～

定例法座【上野隆平師（京都府）】

■正午～

医療相談【佐藤公彦医師】

1・15
(日)

■午前十時～

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生までとその保護者)

1・22
(日)

■午後一時～

定例法座・祥月命日合同法要

【榑渡利文師（東京都）】

2月

2・12
(日)

■午前十時～

定例法座

【上野隆平師（京都府）】

■正午～

医療相談

【佐藤公彦医師】

2・19
(日)

■午前十時～

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生までとその保護者)

2・26
(日)

■午後一時～

定例法座・祥月命日合同法要

【江田智昭師（東京都）】

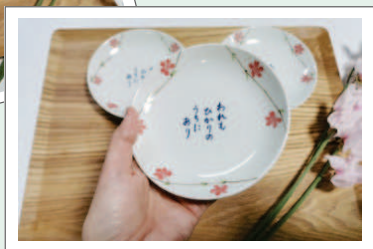
編集後記



・副住職のマグマが大きくなってまいりました。次代のお寺のためにも色々経験を積む新年です。

・ベトナムから長女家族が小学校の冬休み・正月休みを利用し一時帰国。家族十一人が揃いました。賑やかな年始です。

・令和五年の来寺記念品は小皿（五枚セット）です。今年もみなさまのご来寺をお待ちしております。



〔来寺記念品の小皿〕

／ご来寺お待ちしております！／



〔総勢11人の家族写真〕